

本表の略記法について

リソースに出現する CodeableConcept 型の要素は以下のような構造をとる。

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
n	要素名				0..1	CodeableConcept		文書カテゴリ
n.1		coding			0..*	Coding		表現したいコンセプトのコード記述。 繰り返しにより複数のコード体系によるコーディングで記述できる。
n.1.1			system		1..1	uri	“http:.....”	コード体系。
n.1.2			code		1..1	code	“B0EF”	コード。
n.1.3			display		0..1	string	“持続腹痛”	コード体系におけるコードに対応するの表示名
n.2		text			0..1	string	“長く続く腹部の痛み”	表現したいコンセプトのテキスト記述

しかし、表を見やすくするため、この文書では、これを次のように 1 行で省略表記する。値の欄は、4 つの行(子要素)に使う値を列挙するが、省略することもある。多重度の記載は、1 段目に CodeableConcept 型の要素自体の多重度、2 段目にその子要素 coding の多重度(上表 n.1 の多重度)を転記している。

n	要素名				0..1 0..*	CodeableConcept	“http:.....” “00” “持続腹痛” “長く続く腹部の痛み”	説明
---	-----	--	--	--	--------------	-----------------	---	----

なお、coding の多重度の最小値が 0 (すなわち省略可能) の場合には、コードによる記述をせず、以下のようにテキストだけで記述することも許されている。

表 Procedure リソース 入院中治療処置情報

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
1	resourceType						“Procedure”	Procedure リソースであることを示す
2	text				0..1	Narrative		本リソースをテキストで表現したものを入れてもよい。
2.1		status			1..1	code	“generated”	固定値。テキスト内容の全てがリソースのコンテンツから生成されたことを示す。
2.2		div			1..1	xhtml	<div xmlns=“http://www.w3.org/1999/xhtml”>xxx</div>	値は例示。
3	identifier				0..1	Identifier		この情報に付番された ID

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
3.1		system			1..1		"urn:oid:..."	付番方法については「識別子名前空間一覧」を参照。値は例示。
3.2		value			1..1		"2020-10-002933"	情報 ID の文字列。値は例示。
3	status				1..1	code	"completed"	この治療処置情報の実施ステータス。 コード表: "http://hl7.org/fhir/event-status" preparation in-progress not-done on-hold stopped completed entered-in-error unknown 準備中 進行中 未完了 保留中 停止 完了 エラー 不明
	statusReason				0..1	CodeableConcept	text:"発熱のため延期"	中止や保留ステータスとなった理由。コード化せずテキストのみで記述する。
	category				0..1	CodeableConcept	"http://jpfhir.jp/fhir/CodeSystem/procedure-category" "srg" "手術処置"	治療処置のカテゴリ。 例) "srg"(手術処置) psy:精神心理療法 cns:カウンセリング edu:教育 srg:手術処置 診断的処置 chp:理学的処置 scl:ソーシャルサービス処置。
	code				1..1	CodeableConcept	"http://jpfhir.jp/fhir/CodeSystem/Procedure" "1234567"	治療処置情報。 保険診療対象の治療処置においてはレセプト電算コードを推奨す

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
							“腹腔鏡下胃全摘手術”	る。さらに手術処置については、STEM7 コードの併用を推奨する。 コーディングせず、text だけ記述することも可能。
11	subject				1..1	Reference(Patient)		患者を表す Patient リソースへの参照。
	encounter				0..1	Reference(Encounter)		対象となる治療処置が実施された入院詳細情報、または外来受診情報。
	(performed)				1..1	dateTime Period string Age Range		治療処置を実施した時期を次の 5 つのいずれかひとつの要素で記述する。performed 要素は記述しない。
		performedDateTime			0..1	dateTime		日付、日時で記述する場合。
		performedPeriod			0..1	Period		期間で記述する場合。
		performedString			0..1	string		文字列で記述する場合。
		performedAge			0..1	Age		患者の年齢で記述する場合。
		performedRange			0..1	Range		患者の年齢期間で記述する場合。

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
	recorder				0..1	Reference(Practitioner PractitionerRole Patient RelatedPerson)		この状態を記録した人情報への参照。
	asserter				0..1	Reference(Practitioner PractitionerRole Patient RelatedPerson)		この状態があると確認(主張)した人情報への参照。
	performer				0..*	BackboneElement		治療処置を実施した人々や機器の情報。
		function			0..1		"http://jpfhir.jp/fhir/CodeSystem/Procedure-PerformerRole"	治療実施者の役割コード。 当面未使用。
		actor			1..1	Reference(Practitioner PractitionerRole Organization Device)		治療処置を実施した人々や機器情報への参照。
		onBehalfOf			0..1	Reference(Organization)		治療処置を実施した人々や機器が行為を実施した医療機関情報への参照。未使用。
	location				0..1	Reference(Location)		治療処置を実施した場所。
	reasonCode				0..*	CodeableConcept		治療処置を実施した理由。 当面コード化せず、text だけに記述する。
	reasonReference				0..*	Reference(Condition Observation Procedure)		治療処置を実施する根拠となった診療情報への参照。 当面未使用。

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
						DiagnosticReport DocumentReference)		
4.1	bodySite				0..*	CodeableConcept	“urn:oid:1.2.392.200119.4.201.5” “1244” “腹部” “腹部”	該当する状態が現れている解剖学的な場所を示す。 system 値は MEDIS 標準病名マスター修飾語交換用コードを使用する場合の例示。”1244”は、MEDIS 標準病名マスター修飾語交換用コードで“腹部”のコード。“腹部”はそのテキスト記述の例。 手術操作の場合には、 system 値は外保連コード (STEM7) の先頭 3 桁コードを使用する。” http://jpfhir.jp/fhir/CodeSystem/Procedure-Site
	outcome				0..1	CodeableConcept	“ http://jpfhir.jp/fhir/CodeSystem/Procedure-OutcomeCategory ” “success”	治療処置の結果カテゴリ。 success: 成功 unsuccess:不成功 partialSuccess:部分的成功
	report				0..*	Reference(DiagnosticReport DocumentReference Composition Bundle)		治療処置の実施レポート情報への参照
	complicaton				0..*	CodeableConcept	“urn:oid:1.2.392.200119.4.101.6” “TVQ7”	治療処置の伴う合併症。 system 値は MEDIS 標準病名マスター病名交換用コードを使用する場合の例示。”BOEF”は、MEDIS

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
							“術後血腫” “術後腹壁の血腫”	標準病名マスター病名交換用コードで“持続腹痛”のコード。“持続腹痛”はそのテキスト記述の例。 コーディングせず text だけでもよい。
	complication Detail				0..*	Reference(Condition)		治療処置の実施後の合併症を記述する患者状態情報への参照。
	followUp				0..*	CodeableConcept		治療処置の実施後の経過観察や必要な術後処置(例えば抜糸や抜釘など)に関する記述。 コーディングせず、text のみで記述する。
	note				0..*	Annotation		治療処置に関する追加的な叙述的記述。
	focalDevice				0..*	BackboneElement		治療処置で使用したり、埋め込んだり取り外されたりした医療機器の情報。
		action			0..1	CodeableConcept	“http://jpfhir.jp/fhir/CodeSystem/Procedure-action” “2E2” “処置－交換” “CV カテーテル交換”	治療処置で当該機器の操作(取り外し、挿入など)。 コーディングせず、text のみで記述してもよい。
		manipulated			0..1	Reference(Device)		操作対象となった医療機器(器材)への参照。

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
	usedReference				0..*	Reference(Device Medication Substance)		治療処置中に使用された(主要な)医療器材や薬品。 当面未使用。
	usedCode				0..*	CodeableConcept	"http://jpfhir.jp/fhir/CodeSystem/Procedure-action"	治療処置中に使用された(主要な)医療器材や薬品のコード情報。 当面未使用。